

令和 8 年 8 月 20 日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

秋の永代経・さつま開教 150 周年法要ご案内

朝夕の秋風が心地よく、過ごしやすい季節になりました。皆様方にはお変わりなくご健勝のことと存じます。

さて、下記の通り標記のご法要が勤修されます。この私は、あらゆるいのちによって支えられて生かされているという事実を気づかさせてくださる機会が仏縁であり、身近な方の死です。永代経法要はお互いの身近な先祖様を、菩提寺に於いて一同に集い、永代にご法要を勤修いたすものです。重ねて、今回さつま開教 150 周年の法要を勤修し、かくれ念仏の歴史などを福島達也先生に伺います。

仏様のお慈悲に遭い、肉親・知人の弔いをし、この私を仏法へと導いてくださるご縁に感謝申しあげ、何はさておき、聞法に、お寺に足をはこびましょう。

記

- | | |
|--------|--|
| 1.と き | 令和 8 年 10 月 24 日（土）午後 1 時から |
| 2.おつとめ | 大師影供作法 |
| 3.ご講師 | 福島 達也 先生 （北隅組 福應寺） |
| 4.その他 | ご先祖様（還浄された方）個々に永代経懇志をいたすことにより、永代に亡き方にご供養しましょう。 |

◇ “月のことば”を配布します。

◇ 法要前の掃除・準備を法要当日 10 月 24 日 8 時より行います。お手伝い頂ける方は
よろしく願います。お聴聞させて頂くみなでご法要を作りましょう。

<予告>

- 年末寺掃除・仏具みがき：11 月 28 日（土）午後 2 時から、役員と本年初盆を迎えられた家族、その他ご協力くださる方々で行います。ご無理のなきようご加勢ください。個々にはご通知しませんので、よろしくお願いいたします。
- 報恩講法要は 12 月 5 日（土）午後 1 時から、三島 晃真先生（南隅組 大円寺）を迎えて勤修します。

煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもってそらごとたはごと、

まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします

煩惱を抱え、煩惱に振り回されながら諸行無常を生きる私には何一つ「まこと」がないのだと親鸞聖人はお示しになりました。つまり私の存在を本当の意味で支えきり、救いきるものを自分で作り上げることは不可能だということです。ですから、私自身の力を当て頼りにして生きる以上は、その裏側には必ず不安を抱えながら生きていかなければならないということです。

そもそも阿弥陀さまは私の振る舞いを救いの条件とはなさっておられません。それは、煩惱を抱え、煩惱に振り回されながら生きる私の苦しみ悲しみを知ってくださったからです。だからこそ、阿弥陀さまは悲しみを抱えた私をそのまま救える仏となってくださいました。ですから阿弥陀さまは私に生き方やあり方を告げません。むしろ、他人に対して生き方やあり方を告げて生きているのは私たちの方です。テレビの画面を見ながら、また日常の人間関係の中に、「あの人はこうあるべきだ、ああするべきだ」と相手の生き方を問い、評価し、あり方に注文を付けているのが私たちだからです。それはつまり、お互いに評価しあっているということであり、SNSが発達した現代ではより個人が他人の評価にさらされる時代になりました。そうやって私たちは周りの目や評価を意識しながら生きていくわけですが、単純にこのことがすべて悪いことかと言われたら、そうでもありません。なぜならここに私たちの努力の根源があるからです。

私たちには、三度の「誕生」があります。最初は母親から生まれ出ること。二度目は阿弥陀様の願いに出遇うとき。阿弥陀様の願いとは「おまえを必ず浄土に生まれさせて、覚りの仏にしてみせる」です。この願いを聞いたとき、私かこの世に生まれてきた意味が与えられる。私は何のために生まれ、何のために生き、何のために死んでいくのか。そうか、仏になるためであったのか。仏になるために生まれてきましたと喜ぶとき、それが第二の誕生。三度目は、お浄土へ生まれること。死ぬことではない。人間から見れば「死」であるが、お念仏に出遇った者にとっては「往生」である。

そのように考えると、悲しく、泣きながらではあるが、通夜や、葬儀の読経は、お浄土へ生まれた誕生の歌のようなものかもしれない。またこの私を浄土へ往生なさしめる、阿弥陀さまをほめたたえる歌である。

しかし、よく考えてみると、私たちは、生きているあいだに、お浄土への誕生を祝う歌（お経）を読誦しているのだ。なんと頼もしいことではないか。

